

# 直近の世論調査から (2010.4.23) ... 参考資料

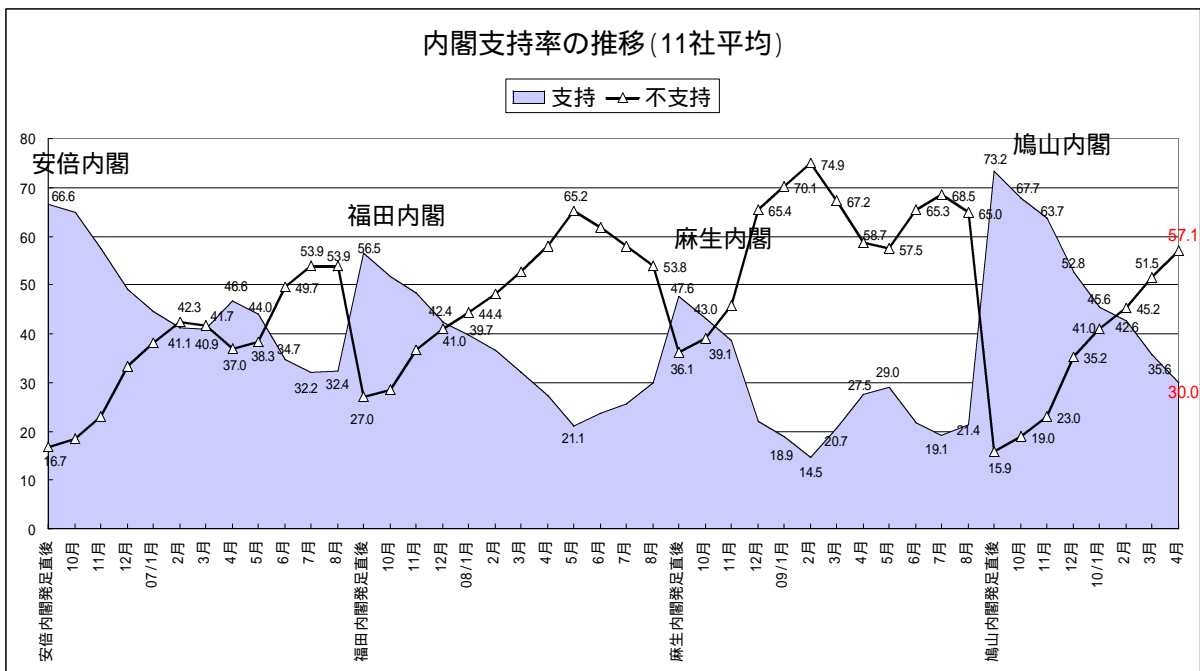
## 1. 鳩山内閣の支持率... ついに「危険ライン」30%に。安倍内閣の最低記録(32.2%)をも下回る

今月の世論調査は、一部(日経とFNN)が未実施だが、9社平均では、左表のように支持が30.0%、不支持が57.1%と、内閣支持率の「危険ライン」とされる30%に入ってしまった。

	支持	不支持
日経		
毎日	4.19 33	52
読売	4.5 33	56
朝日	4.19 25	61
共同	4.5 33.0	53.3
時事	4.16 23.7	56.5
NHK	4.12 32	56
JNN	4.5 33.4	66.1
ANN	4.12 28.5	55.4
FNN		
NNN	4.11 28.6	57.5
平均	30.0	57.1

3月が支持35.6%だったから5.6%。4月以降はさらに普天間問題という悪条件が控えているが、「事業仕分け」の第二弾が行われることから、これが幾分かは好影響を与える可能性はないとは言えないが、楽観できる情勢にはない。「5月政変」説も流れてきた。

下の図は、安倍内閣以来の支持率の推移を見たものだが(11社平均)、福田内閣と麻生内閣は論外としても、安倍内閣の支持率最低ライン、07年参議院選挙直前の32.2%をも下回っている。



歴代内閣の退陣前支持率  
1989年以降のみ(調査年・月)

朝日新聞	読売新聞	毎日新聞
竹下 7% (89.4)	竹下 8.0% (89.4)	竹下 9%
森 9% (01.2)	森 8.6% (01.2)	森 9%
麻生 19% (09.8)	宮沢 10.4% (93.6)	宮沢 18%
福田 25% (08.8)	宇野 22.8% (89.6)	麻生 20%
鳩山 25% (10.04) 現在	麻生 24.7% (09.8)	村山 24%
橋本 26% (98.6)	福田 28.3% (08.8)	福田 25%
宮沢 26% (93.4)	安倍 29.0% (07.9)	橋本 27%
宇野 28% (89.6)	橋本 29.9% (98.6)	小淵 28%
安倍 33% (07.8)	鳩山 33.0% (10.04) 現在	安倍 29%
村山 33% (95.12)	村山 35.4% (95.12)	鳩山 33% 現在
小淵 36% (00.3)	小淵 40.7% (00.3)	海部 36%
小泉 47% (06.8)	羽田 48.2% (94.6)	小泉 45%
羽田 47% (94.5)	海部 52.3% (91.9)	細川 74%
海部 50% (91.9)	小泉 53.0% (06.9)	宇野、羽田は調査なし
細川 57% (94.2)	細川 55.1% (94.3)	

左表は、記録を集めることの出来た各社(朝日・読売・毎日)の「歴代内閣の退陣前支持率」だ。

さすがに細川政権(1993.8 発足)と小泉政権(2001.4 発足)は発足直後の支持率も1位、2位を記録しただけあって、退陣も(政権期間の長短はあったが)高い支持率のまま終わっている。鳩山内閣は昨年発足した時は、小泉内閣に次ぐ2位

ないしは3位であったが、どうも綺麗なままでは終われそうにない。

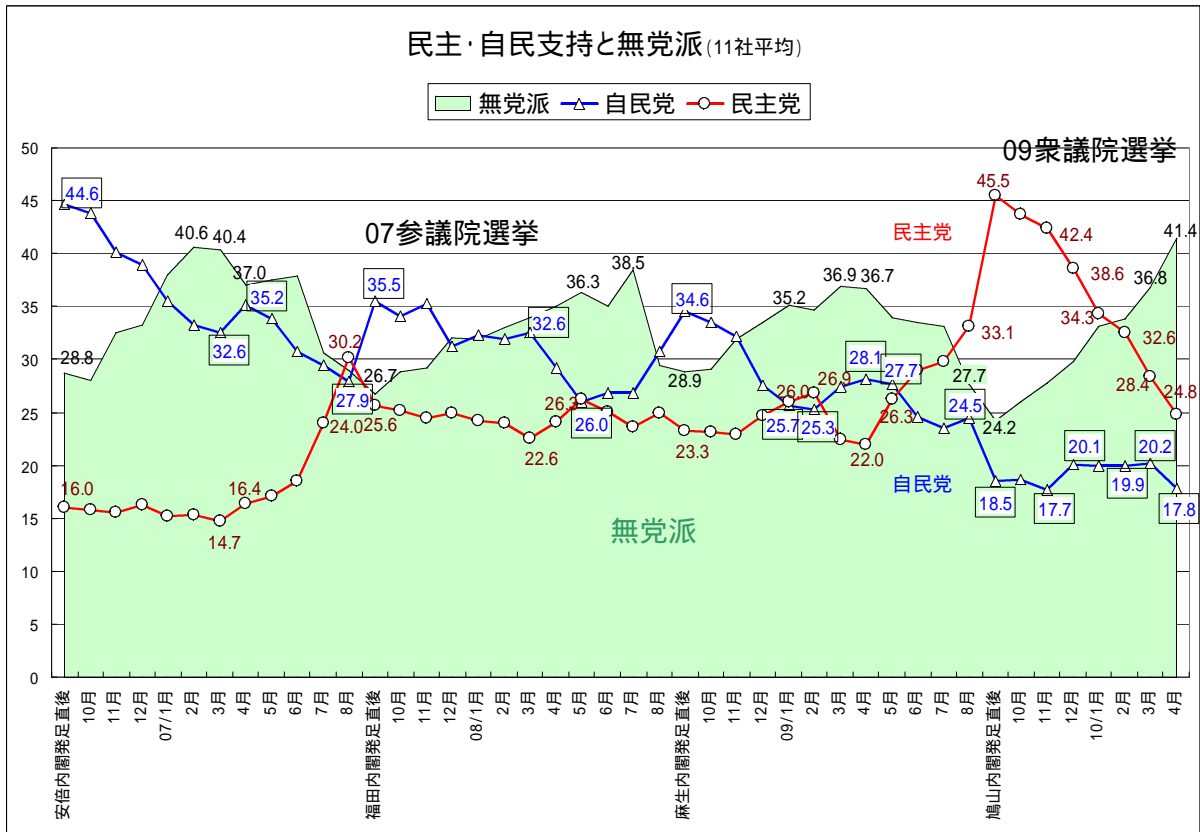
2. 政党支持率...民主支持が続落。今月は24.8%に。自民も低迷続く。  
無党派は安倍内閣後最高の41.4%に。新党期待は2割のみ。

	民主	自民
日経		
毎日4.19	23	14
読売4.5	24	16
朝日4.19	23	14
共同4.5	30.3	18.0
時事4.16	17.2	14.2
NHK4.12	22.2	16.1
JNN4.5	27.0	16.3
ANN4.12	29.5	27.6
FNN		
NNN4.11	27.4	24.3
平均	24.8	17.8

民主党支持率の続落も止まらない。今月は民主党の支持率が 24.8 %で、前月の 28.4 %から 3.6 %。しかし自民党の支持率も低迷したままで、今月も 17.8 %で前月 20.2 %から 2.4 %。

安倍内閣の発足時、自民党の支持率は 44.6 %だった。これが3年7ヶ月後には 44.6-17.8=26.8 %の減少。有権者を 1 億 400 万人とすれば、単純計算で 2782 万 2 千人が自民党支持から離れたことになる(実態はこう単純ではないが...)。

政権交代による民主党へ支持バブルは異常なものがあつたが、それにしてもわずか半年足らずで、これだけ激減してしまった。今後の日本の政局がいかにか不安定なものになってしまうのか、戦後経験



したことの無い事態が待ち受けているのだろう。

政権党の民主党と自民党との合わせた支持率が 42.6 %。無党派は今月は 41.4 %にまで膨れあがった。これは安倍内閣の時のピークの 40.6 %をも上回る数字になっている。民主支持層と自民支持層の崩壊によって、行き場を失った有権者が、やや「みんなの党」にも加勢し始めたとみるや、新党ブームが起きそうな気配になってきている。マスコミも

みんなの党(4月)

	支持率	比例投票
日経		
毎日4.19	8	12
読売4.5	4	5
朝日4.19	3	7
共同4.5	9.6	9.8
時事4.16	2.1	7.2
NHK4.12	2.9	
JNN4.5	4.3	6
ANN	5.6	
FNN		
NNN4.11	5.5	7.9
平均	5.0	7.8
3月	3.8	6.3

新党「たちあがれ日本」に

	期待する	期待しない
NNN4.11	21.7	76.0
NHK4.12	21	72
毎日4.19	21	78
平均	21.2	75.3
樹添新党に期待		
	期待する	期待しない
毎日4.19	20	79

これを応援したいらしい。

「みんなの党」が出来たのは昨年総選挙の直前だったが、支持率は今年の2月までは2%前後で推移し、3月になって3.8%、今月は5.0%に伸びている。また参議院比例投票先でも先月が6.3%、今月は7.8%と明らかに勢いが見られる。これを支えようと

しているのは「真の小泉構造改革」の継続を望む、旧自民党支持層のようだ。

しかし4月10日に結成された「立ちあがれ日本」は、調査が行われたものでも、支持率は0%から1%程度で、「シルバー新党」「立ち枯れ日本」などと揶揄されるように、今のところはどうも風を受ける素質は無いようだ。

3月に「新党に期待するか」を聞いた調査(FNN)では、「期待する」は30.1%だった。今月の新党「立ちあがれ日本」に「期待する」としたのは21.2%(3社平均)。「オオカミ中年」がよいよ立ち上げる樹添新党も「期待する」のは20%だ(毎日4.19報道のみ)。18日には首長新党「日本創新党」が結成されたが、「バラバラ新党」ともいわれるように、新党に対する世論の風向きも甘くはない。旧民主党支持層・自民支持層が新しい受け皿を探して彷徨い続けているのは違いないが...

3. 参議院選挙の行方...民主党には厳しさが増すのみ

(4月)小沢氏は幹事長を

	辞めるべき	辞める必要ない
日経		
読売4.5	77	18
朝日4.19	76	19
共同4.5	81.4	14.5
時事4.16	75.9	
JNN4.5	84	14
FNN		
NNN4.11	78.4	17.3
平均	78.8	16.6
3月	74.1	17.2
2月	71.2	20.1

鳩山内閣や民主党の支持率が急傾斜で落下してきた大きな理由が「政治とカネ」の問題にあることはいうまでもない。マスコミは今月の調査でも、執拗に「小沢氏は幹事長を辞めるべきか否か」を聞いている。あたかもこの調査を止めれば、小沢問題が風化してしまうと危ぶんでいるかのように...

今月の調査では6社がこの設問を立てた。微妙に設問表現は違うが、「辞めるべき」と答えた人は平均で78.8%。先月は74.1%、先々月は71.2%だから、少しずつ上がっている。

(4月)小林議員の議員辞職

	辞めるべき	辞める必要ない
NNN4.11	81.2	11.7
3月	68.4	13.8

小林ちよみ議員に対する設問も1社(NNN)だけだが行っている。「辞めるべき」は81.2%。先月は4社平均で68.4%。この比率も上がっている。

民主党が参議院で単独過半数

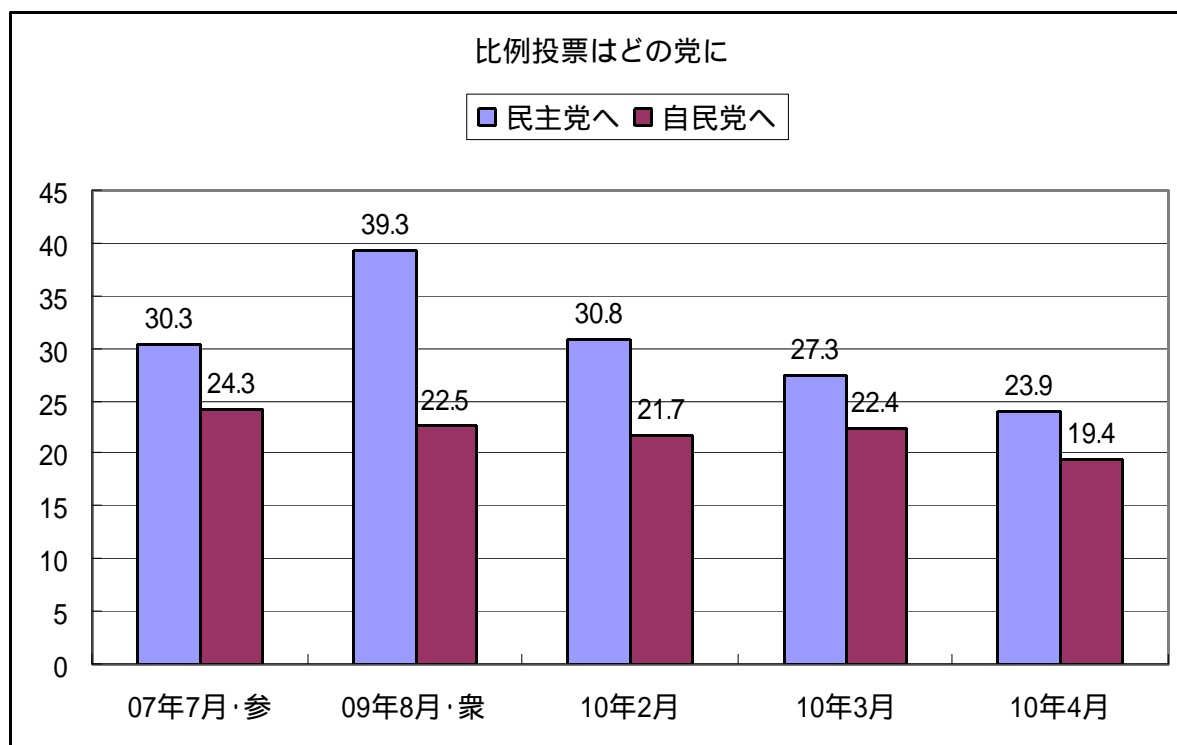
	期待する	期待しない
日経		
毎日4.19	23	72
読売4.5	31	57
朝日4.19	23	65
共同4.5	27.5	56.8
NHK4.12	33	54
JNN4.5	28	64
FNN		
NNN4.11	31.3	60.3
平均	28.1	61.3
3月	30.0	60.6

先月の調査から、「民主党が参議院で単独過半数を占める」ことを期待するか・しないか - という設問も出てきた。

この調査は左表のように、「期待する」のは7社平均で28.1%。先月が30.0%だったから、2%ほど下がっている。「期待しない」=民主党には参議院では勝ってほしくはない、というのが60.6%から61.3%へ、わずかだが高くなった。

これを総まとめすると、参議院選挙に近づくにつれ、民主党にとっては、良い条件は削られ続けて、厳しさのみが増してき

ているようだ。



これは端的には上図のようになる。

参議院選挙では比例投票先にどの党を選ぶかでは、4月「民主党へ」は23.9%、「自民党へ」が19.4%。

いずれも前月より下がっている。政党支持の傾向と同じだ。07年参議院選挙の調査と昨年の衆議院選挙の調査は、投票日直前のものだから、無党派層が民主党に加勢して出ている数字ではある。

今度の参議院選挙は、政権党になって初めての国政選挙だ。今までは、投票日の直前になって、政権（自公連立）に批判的な無党派層の追い風を受けて民主党は好調な選挙結果を得ることが出来たが、今度はおそらく反対の傾向になる可能性が高い。

選挙に関心を失った新無党派層や「政党難民」層の影響で投票率が下がるのか、政権（民主連立）に批判的な層が投票行動では野党に味方することになるのか、あるいはこれらの双方が出現するのか。いずれにせよ、民主党は、こうした情勢にどう向き合うのか、曖昧にはしておけない段階に入ってきたと考えるべきだろう。